

杉八小にあった  
戦時青年学校

原田 弘

戦時中、特定の小学校に青年学校というのがあり、この杉八小にその学校がありました。教育内容は軍事訓練が主でありその合間に一般教育の授業が行われていました。

この学校は北方から南関東まであり、生徒は学歴関係なし、高内寺家商店街や町工場などで社員働いている青少年が大半で、普通科、理科、算科など分かれていたと思いますが、例分六十人以上の単位で設備が得れて不足感などところがあるかも知れません。

この指導員は上等兵、伍長など尉官をつけた百戦錬磨人と呼ばれる兵隊経験者で大半は職人や店長など自分の店をやっている人達でした。

杉八小の講堂の東側に特設室がありました。その前に小銃がずらりと立てかけてありました。生徒は兵隊服のような服装で足にはゲートル又は脚絆と称されるものを巻きました。時々夜間に隊列を組んでラッパを先頭に進行中隊、連隊を統制をかついで行進しました。またその頃



当時の講堂とその内部



※今回は本文に適合する資料として、学年資料として昭和初期の杉八小の写真のほとんどが有難かったです。写真のすべては杉八小から提供したものです。

今の高校通りはまったくありませんでした。

また新には日中野営訓練で夜間、射撃訓練。これは容易にカーバイドを入れた手を燃すと連続的に音が出るもの。など聞いて石神井公園辺りまで行きました。石神井あたりはまだまだ、武蔵野の森を少し残して居るところも。榎木林、ササキの木の防風林などに囲まれた中に家庭用型の農家などあり戦争を忘れさせるような風景でした。

青年学校の軍事訓練を視察するため、年一回視察といって陸軍省から大佐級の軍人が来ました。

この時「君等の敵は誰だ」と質問されたら「ハイ！年をとりにくすを天皇の青年であります」と答えると空閑官が喜ぶといわれ調子は「極めて優秀、優秀、真誠、おおむね良好」などで評価に「第一善したものです」。



先生と一般高い教壇に立って授業していた



当時どこの学校にもあった二宮金次郎像

学校正面校門と校庭から見た校舎



射撃風景



原田 弘 氏

杉八小 旧舎会長、(元)日本歴史学会会員、杉八小地区文化財保護協議員、日本ペンクラブ会員